

本日ここに、第29回国際ロータリー第2770地区インターアクト年次大会が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。本大会は、スポンサークラブである春日部西ロータリークラブのご支援をいただき、石川良三春日部市長、浅水尚伸ガバナーをお迎えして、インターアクトクラブの活動に日頃ご尽力いただいている春日部共栄高等学校が主催校として運営されます。関係者の皆様のお骨折りに深く感謝いたします。

さて、本大会では、国際協力NGO「ワールド・ビジョン・ジャパン」のご協力で、「世界の子供たちの現状について」をテーマに松本謠子様にご講演をいただきます。そして、皆さんには、その講演に基づいて、紛争・難民、平和構築、児童労働、人身売買の4つのテーマで、午後、分科会に分かれて学習していただきます。

「ワールド・ビジョン」は、子どもたちの健やかな成長のために活動している国際的なNGO（non-governmental organizations、民間人や民間団体のつくる機構・組織）で、子どもたちが、心身ともに健やかに成長し、良好な社会・人間関係を築き、尊重・保護され、社会に参加する機会を持ち、社会的公正を実感できることを目指していると伺っております。また、そうした支援の中で、子どもが健康を享受し、教育を受け、守られ、愛されていると感じ、様々な機会に参加して成長できるよう目標を立て、その達成度を確認しながら活動しているとも伺っております。

その活動の一環で、チャイルド・スポンサーシップを募る活動があり、そのテレビ広報で、バングラデシュで貧困にあえぐ少女の現状を伝える映像を拝見しました。

そこではテロップで、こう問い掛けられます。「あなたは今、何をしていますか？」

そして、求められます。「いま、あなたにできること。」

私には、高校生である皆さんに、経済的な支援を求めようという気持ちはありません。しかし、世界各地に困難な状況にある子どもたちが大勢いるという現状を知った上で、自分が今、何をしているかを自問し、自分は今、何ができるかと思いを巡らすことは、誰にでもできることであり、すべきことであると考えています。

1950年にアメリカで「ワールド・ビジョン」を創始したボブ・ピアス氏の考えとして、こう伝えられています。

「すべての人々に何もかもはできなくとも、誰かに何かはできる」

僭越ながら、私が常々、自校の生徒に問い掛け続けていることも同じ趣旨のことです。

世界を、この世の中を、もっと良くするために、今の自分に何ができるか、何をしたらよいのかと考えて、そのために自分にできること、すべきことを、自分の頭で考えて、意識して、行動しよう。「たいしたことはできない」と「何もできない」は全く違う。「世界中の人々」とか「困っている全ての人」に対してはできなくとも、自分の目の前にいる一人にだったら、自分の身近にいる人にだったら、何かできるかも知れない。どうせ自分一人が何かしたって、何も変わらないとあきらめてはいけない。どうせ自分がやらなくたって、誰かがやってくれるだろうと人任せにしてはいけない。

インターアクトクラブの皆さん一人一人のこれからの活動に、期待しています。

結びに、日ごろインターアクトクラブに多大なるご支援を賜っておりますロータリアンの皆様、宇野禎弘校長先生はじめ春日部共栄高等学校、並びにご講演をいただく「ワールド・ビジョン・ジャパン」のご関係の皆様ほか、本会の関係の皆様方に改めて心よりの感謝を申し上げ、インターアクトクラブ顧問教師会会長の挨拶とさせていただきます。